



日刊東京新聞  
日休刊一ヶ月廿五日  
郵便十五錢一部二錢  
廣告料一行四十錢  
場所指定二十錢  
發行余額每冊  
中谷政喜  
福島縣平市大町二三  
新いわき新聞社

講座

ルボルタージュは佛語  
だ普通には報告文學を  
指し、新聞記者の長い  
報告記事などを云ふ。  
タージュなど云ふも其  
の意、ルーフエルは傳  
話符、メカホンの一種

進一 片寄金作 馬自鑑義  
若松修一 管野四郎 橋本  
松崎源吉 石川傳吉 中村  
八浦 喜澤誠三 若松孝平  
豊須藤熊雄 根本正行

署管内の一齋檢舉  
河川工事の賄品も横田で處分  
賊と商人から曝れる盜み

順延の由  
晚秋爾相場  
長崎きよのさん

平市字御町三二七澤きよのさん  
んは皇軍に贈る慰問袋八個を  
今十九日市役所に寄託した

正規入院、近く運動か、東

皆々様の御健康新り上げ候  
(十八日S氏へ久留米陸軍病

院○○部隊より)

正規入院、近く運動か、東

寒冷地で  
米の二大作新潟縣と長野縣  
の篤農家鶴巻元太郎氏は去る

八月十一日二畝歩の水田から

新米八斗を生産しうち四斗一

俵を新潟市場で石州六圓四十

錢の割で初取引したが新潟縣

は云ふ迄もなく關東、東北地

方産のトップを切つたものだ

が同氏の早生種栽培の動機は

降雪地に於ける二期作に成功

せんとしたのが最初で、

大正四年高知縣早生種「都

錦號」及び東京高農園早生

種「二度梗號」を夫々試験裁

培したところ二度梗が都錦

より出穂十日早く好成績を

示したので、

以來二度梗號に色々改良を

加へ寒地に適する早生種「大

和早生號」を創成して大正十

三年以来引續き十四年間に亘

り新米のトップを切つてゐる

もので寒地に於ける一期作成

功の確信をもつて至つた、

早生栽培に最も苦心を要す

るのは苗の育成で同氏は高

く土盛りした高段温床等で

も試作して見たが灌水が理

想的に行かず失敗し、現在

ではコンクリート苗代を使

用じ除草をかけ施肥以来一

分位まで伸びる間は浅く灌

水し五分以上になると水を

落し急速な発育をはかつて

育をはかつてゐる、

ところが同じ寒地の長野縣

の稻作を採用し速効性

肥料のみを施して急激な發

育を行つた水稻二期作の

醤油味噌  
たひら正宗さとう醤油は  
ヤマフル牛も豚も優良品の自慢  
肉の御用命には牛も豚も優良品の自慢  
平市田町◆一般印刷物も  
御引受け致します  
新しいわき新聞社當量は二石五斗、本年で同試  
雨を克服して見事に結實した  
ので其の収穫を終り後作の反  
応は三年目にあたるが逐年好  
成績を挙げ向上的途をたど  
つてゐる、同分塊は後作も前  
作同様の成績を上げんとし兩  
作で反當五石収穫は大丈夫と  
見てゐる、品種は北海道產坊  
主五號、同六號であると完産科、婦人科専門  
根本醫院 (平市南町)  
電話三四番病室 入院 隨時  
増築 手術室完備 根本庄次  
電話三四番 雄郎婦人科 王一嵐雄一  
平市新川町 電話三六九番

病室増築、手術室完備

平病院 (平市元共濟病院跡)  
電話六四一一番内小兒科 院長 鈴木定藏  
産婦人科 部長 鈴木定藏  
皮膚泌尿器科 鈴木定藏  
レントゲン科 部長 鈴木定藏  
物理的療法科 技師 岡田重徳  
薬剤科 部長 梶原吉平  
診療時間 每日午前八時より午後九時ま  
限にあらず 夜間診察に從事す(急患は此)往診隨時、病室完備  
(自炊の便あり)明治生命磐城代理店 山崎與三郎  
電話一本店二七〇番  
内科、小兒科  
外科、花柳病科  
耳鼻咽喉科  
高久病院 院長 医學士 高久忠  
平市田町 電話五二三番

藤沼醫院 平市紺屋町 電五〇七

スペインG・H・N 元詰  
ゴルフポートワイン  
甘味葡萄酒 1・19  
香婦人の方には少し水を加へて  
呑むと風味一そう佳良です

(平2) 西村屋藥舗 (電3)

横山商店 雜貨部 町間仲市平  
二五三電 0-60-6 京東替振  
番一七二電話

サロモン

町平二五三電

酒場を兼ねた。  
喫茶。新時代の要求  
財産事業に等外看護婦を特設いたし  
皆様の御用向へ身元確かな婦人を  
派出致します、  
御手不足の御家庭  
軽い御病人の付添  
妊娠産婦の御家庭新時代の要求  
金屋商店新時代の要求  
金屋商店喜久水 町南市平  
番八二七電話